

## ポスターセッション

## 「海と日本 PROJECT ミッション 2021」 実施事業から検証する科学館が担うべき社会的役割

千葉市科学館 地域連携グループ 金島 光年

当館では、北海道大学との共催で過去2年に渡り「海と日本 PROJECT」関連事業を実施している。本年度は、銚子沖洋上風力発電施設の見学を中核として、洋上風力発電をテーマに取り上げた。その中では「発電」という視点のみならず、生物環境と風力発電の関わりなど複数の視点があることを参加者に伝え、複合的に考えるきっかけを作った。科学館というモノ資料をほとんど有さない施設形態は、他の施設に比較してモノを通しての情報提供の面では課題が多いが、その中でどのような役割を担っていくべきなのかを考える。

## 国立科学博物館における、コミュニケーションを 主眼とした講座のオンラインでの展開について ～サイエンスコミュニケーター養成実践講座と親と子の たんけんひろば コンパスのワークショップを例に～

国立科学博物館 事業推進部学習課 熊野 有祐  
関戸 颯汰  
有田 寛之

国立科学博物館では科学リテラシー涵養とサイエンスコミュニケーションの促進に向けた事業を展開しており、中でも、理系の大学院生を主対象に「深める・伝える・つなぐ・活かす」という要素について、実践を通じて学ぶ「サイエンスコミュニケーター養成実践講座」と、親子のコミュニケーションを促す展示室「親と子のたんけんひろば コンパス」は、対面でのコミュニケーションを前提として展開してきた。

本発表では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により対面での開催ができない中、オンラインを活用した講座やワークショップの開催に向けた工夫や課題について紹介を行う。

## コロナ禍における糸魚川フォッサマグナ ミュージアムの特別展展示活動 ～ VR を利用した山の展示～

糸魚川フォッサマグナミュージアム  
糸魚川市文化振興課博物館学芸係 **小河原 孝彦**

新潟県糸魚川市にあるフォッサマグナミュージアムでは、令和3年7月22日～11月30日の期間、文化庁の「地域と協働した博物館活動助成事業」を活用し、山の特別展を開催した。展示物の作成では、地域の山岳団体と合同で資料の準備や山の取材活動を実施することができた。また、360°カメラで取材した山の風景をVR動画として編集し、超広角プロジェクターで放映することで、コロナ禍でも山の楽しむ工夫をしたことから内容を紹介する。

## 三重県立盲学校と連携したさわって学ぶ 学習プログラムの実践と教材開発

三重県総合博物館 **中村 千恵**  
**田村 香里**  
**稲垣 玲弥**

ほ乳類をテーマに、三重県立盲学校と連携して約1年間にわたり継続的な学習プログラムを実践し、その成果を子どもたちと一緒にさわれる展示として発表しました。学習プログラムの具体的な実践内容とともに、取組のプロセス、実践の中で開発したさわって学ぶ教材などを報告します。

## 非接触スイッチ導入による来館者の安心感及び 展示物の利用変化についての調査結果

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 資料課 主任学芸主事 **漆原 英明**

当館では、接触感染のリスクを減らし、来館者が安心して展示を楽しめるよう、非接触スイッチを導入している。令和3年度、まず9個の非接触スイッチを試行的に導入し、来館者アンケート及び目視調査を行った。調査結果を踏まえてスイッチの性能を再検討し、新たに28個のスイッチを押しボタン式から非接触式のものに変更した。非接触スイッチ導入に関する、現在も継続中のこれらの調査結果及び当館の取組について報告する。

## “キットカット”と連携した 科学館コンテンツの全国展開

日本科学未来館 経営戦略室 **新井 真由美**  
科学コミュニケーション室 **長谷川 潤**

広い世代に親しみのあるお菓子“キットカット”とのコラボレーションにより、科学館からの発信に留まらない科学コミュニケーション活動を全国展開した。具体的には、未来を考えるきっかけとなる問い「未来クエスチョン」を個包装紙面に掲載することで、未来の科学技術等について家族や友達と対話するきっかけを提供するとともに、市民が考えた問いへの回答をコンテスト形式で募った。一連の構想から企画、結果について発表する。

## 国際標準 IIIF 対応デジタルアーカイブを活用した 電子展示構築

国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター

倉島	治	(国立科学博物館)
有賀	暢迪	(一橋大学・国立科学博物館)
細矢	剛	(国立科学博物館)
神保	宇嗣	(国立科学博物館)
有田	寛之	(国立科学博物館)
中島	徹	(国立科学博物館)

現在の博物館一次資料には情報資料が含まれ、標本・資料を記録したデジタル・アーカイブや、それらの特性を記述したメタデータの重要性は高まってきている。こうした中、国立科学博物館のもつ画像とメタデータを国際標準形式でまとめ、他機関の標準形式公開データとともに展示できる電子展示を構築した。電子展示上では、自機関、他機関の資料を同じ方法で引用し、キュレーションを加え、Web上で公開することが可能である。

## 名古屋市科学館における 地域の生物多様性普及の試み ～「なごやのざんねんじゃない！いきもの」展示～

名古屋市科学館 学芸課 学芸係 柏木晴香

名古屋市科学館の常設展ではミニ企画展示「なごやのざんねんじゃない！いきもの」展示を行ってきた。本展示は2020年に名古屋市版レッドリストが改定されたのを期に、なごや生物多様性センターと名古屋市科学館が共同で企画・作成した。生物多様性の主要な教育普及拠点が存在しない当地域において、地域内連携によって地元の生物多様性の教育普及に取り組んだ事例として報告する。

## 公園を「展示」する —隣接する公園と博物館を接続する試み—

横須賀市自然・人文博物館 主任学芸員 内船俊樹

2021年4月にリニューアルした平和中央公園は1970年、隣接する博物館と同年に開園したが、博物館も公園もお互いその立地をほとんど生かせていなかった。近年、近隣商店街イベントを通じて博物館と公園との接続性を高める意義を実感したことから、今回のリニューアルに際し平和中央公園をテーマにした企画展を企画・制作した。企画展の背景、展示内容、展示や関連事業による効果について報告する。